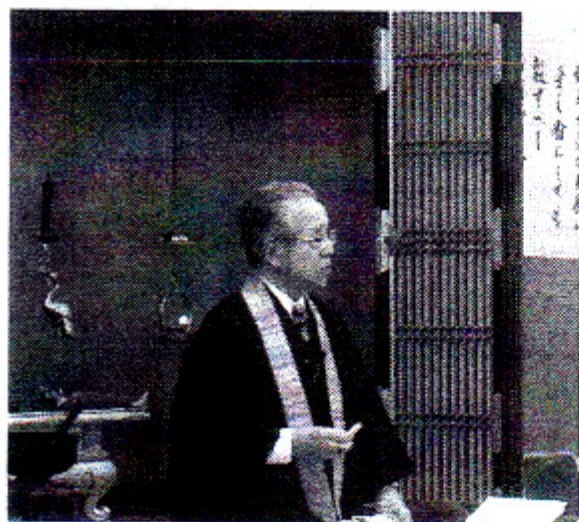


◆秋安居◆ 研修部門主催



去る9月13日(火)・14日(水)に、小川一乗先生をお招きして秋安居が開かれた。講題は「『顕浄土真実証文類』解釈―「証」の二重性についての試論―」である。先生の御領解を能登でお聞き出来る喜びに胸躍らせながら、教務所に向かった。

先生は、御講義の中で、仏道に生きる皆さまに対するお話しなので、少し難しい展開になるかも知れないが、わかりにくかったらおっしゃって下さい、と私どもへの思いやりも含め、厳粛な学びの場をお創り下さった。

証の二重性とは、証(等正覚・正定聚)から証果(大般涅槃・必死滅土)であり、既に本願によって真の仏となるべき身といただいて、先に歓喜す。それが「念仏浄土」(聖人は熟語しか使用されていないとのこと)であるとか、善・楽・愚などの誤解されやすく曖昧な語の本義、回向などについて理路整然とお教え下さった。そしてそれを通して、仏教・聖人の教えの整然さをお示し下さったのである。

教えをいただき、時が経つほどに、先生の静かな中に力強い一言ひとことが、「今現在説法」となって響いています。おかげさまで、もったいないことです。 (第10組西勝寺住職 西山 郷史 氏)